

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

当工業団地は平成5年4月に操業を開始した。団地の総面積は約15万平方メートル、その内組合員の事業占有面積は約8.5万平方メートル、共有地(緑地・道路・調整池等)は6.5万平方メートルであった。団地創設時から「地域社会との共生、地域環境の保全」を掲げ、緑の中の工場公園的な色彩を打ち出すべく、建物の設計段階からイメージ作りを推進し、今日に至っている。

当組合は平成2年1月に設立して、まる32年が経過したが、地域社会との共生及び地域環境の保全は組合創設から一環して取り組んでいる。しかし、当組合を取り巻く事業環境は大きく変化した。都市化が加速度的に進み、近隣には大型商業施設、小売店舗が相次いで出店し、住宅用地の供給が追いつかない状況にある。朝夕は大渋滞が慢性化している。また、当該地区は平成27年に市街化区域に変更され自然環境は縮小の一途をたどっている。それゆえに、当組合の緑地率(31.3%)を維持することは、これまで以上に地域社会との共生及び地域環境に貢献するものと思慮される。因みに合志市企業立地に関する条例では敷地面積の10%以上の緑地を設けると規定されている。

ところで、操業開始時における組合員の従業者総数は516名であった。その後バブルの崩壊、超円高、熊本地震など、組合員を取り巻く経営環境は大変厳しいものであったが、地域の雇用を守り(現在に至るまで500名を割った年度はない)続け、地域経済の振興に寄与している。また、合志市に事業所を構える組合として、合志市や合志市企業等連絡協議会が開催する人権に関するセミナーなどへは積極的に参加するとともに、組合のホームページを活用し、差別のない社会に向けた取り組みを行っている。

当組合は、建物を含めた質の高い環境の創出及び自然環境の維持、地域社会との共生(差別のない社会の実現、地区行事や合志市の施策への協力等)、地域経済の振興(組合員の付加価値生産性の向上・雇用の維持拡大)及び合志市がすすめる住み続けられるまちづくりに貢献する。

<SDGsに関する重点的な取り組み及び指標>

三側面 (分野に◎)	SDGsに関する重点的な取り組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
◎環境 ○社会 ○経済	・自然環境の維持保全(飯高山公園との調和・・・市民の憩いの場を提供、組合統一デザイン社名看板の更新等) ・工業団地内緑地率の保持 ・調整池の管理	・除草作業2回/年(S≒35,600㎡×2回) ・飯高山に隣接する樹木の非伐採(公園との調和) ・組合統一デザイン社名看板の更新 2件 ・工業団地内緑地率(31.2%)の維持
○環境 ◎社会 ○経済	・(株)こうし未来研究所がすすめる街づくりへの参画、合志市及び合志市企業等連絡協議会の差別解消に向けた取り組みへの参画	・(株)こうし未来研究所の円滑な街づくりを株主として側面支援 ・人権に関するセミナー等への参加 2021年 2回/年→2024年4回/年
○環境 ○社会 ◎経済	・雇用の維持拡大(新卒者雇用及び中途採用)	組合全体 2021年 752名 →2024年 762名 ・新卒者 5名 → 7名 ・中途採用 50人 → 57名

<パートナーシップ>

- ・(株)こうし未来研究所(地域づくり・まちづくり関連事業の推進)
- ・合志市企業等連絡協議会(地域貢献事業、人材確保に関する事業、地域経済の振興について連携)
- ・合志市商工振興課(地域経済の振興及び自然環境の保持について連携)

・「SDGsに関する重点的な取り組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取り組みを記載してください。なお、取り組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。

・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取り組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。

・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携があれば記載してください。